

第 42 回 名古屋大学人体解剖トレーニングセミナーを受講して

今年 8 月に開催された第 42 回名古屋大学人体解剖トレーニングセミナーを受講させていただきました。私は今年で 3 回目の参加となりますが、改めて座学で得られる知識や平面的なイメージと、実際に解剖して得られる知識や立体的なイメージではその深さが全く異なることを感じました。特に血管や神経の走行など、なかなかイメージができないところを立体的にイメージすることができました。

現在私は、看護学生に対して解剖生理学の講義を担当しています。講義では教科書を利用した平面的な解剖図とアプリを利用した立体的な解剖図を用いて説明していますが、自身の課題として、どのような方法で学生に対して臓器の形態のイメージをつけさせ、またその特徴を伝えるかがあります。私自身、人体解剖の経験が少なく人体の素晴らしさや奥深さ、解剖学の面白さを上手に伝えることができずにおり、今回 3 回目となるトレーニングセミナーに参加させていただきました。今まで座学で得た知識を思い出しながら実際に手を動かし、また指導教員の先生方の講義や説明を聞くことができ大変貴重な経験をさせていただきました。特に今回は、佐藤達夫先生の「解剖学特論 腕神経叢」についてのご講義を受講することができ大変嬉しく感じました。また徳田信子先生のご講義も受講することができ、大変勉強になり先生からいただいた資料を手元におき組織の剖出を行いました。今後もこのような体験がコ・メディカルの立場でも経験できることを切に願っております。

最後になりましたが、このような機会を与えて下さった名古屋大学医学部解剖学教室の先生方、不老会の皆様方、セミナー開催に関わられた皆様に深く感謝申し上げます。そしてなによりも、献体をしてくださった故人、またそのご遺族の方々に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

大阪青山大学 健康科学部 看護学科
泉谷 泰行